

## 『太陽の横』 秀歌抄出三十首

\* 選考委員による抄出

みどりごはくたくたに疲れ生まれくる初夏さわがしい分娩室に

花籠に花あふれゐる病室で褒められてゐるわたしの乳首

大丈夫だよママのちんちんもトラックがいま運んでる、とぞ

子を持ちても歌会へ通ふ日々をもつ男性歌人をふかく憎みつ

三年をともしに過ごして子はいまだ母の名前を知らずにゐたり

泣き顔がどうも舅に似てきたな　ともあれ深く抱きしめてやる

ミートソースに口を汚してわが子とは年の離れたおとうとのやう

きみのなかへ入りゆくものを見とどけて出でくるものを待ちわびてゐる

十分で一本吸へる計算を　ふたり子はいま寝ねたるところ

ベビーカーをずり落ちてゐる片足にひそかに触れる老いた手のある

生きることの目的は生き延びること床からひろつた服なども着て

出張へ旅立つ人をこころよく見送ることに母親になる

小便器どうしに隣りあふことの悲壯を知らず　はや秋の淵

地下鉄でレーズンパンを食べてゐる茶髪の母だつてきなさい

カーテンを開けたる部屋にわたくしの陰をとほりし頭がふたつ

泣きやまぬ子を抱いたまま階段の段を転がりおちてやらうか

次世代と女性はけふもひとくくり色あざやかな浅葱の紐に

「プチトマトのへた取らないでほしかつた」泣くほどに恨まれて母とは

子を産んで毎日泣いてゐる人へ　わたしはあなたのすべてを守る

ぐしやぐしやのかばんから出る口紅で煙草をやめてゐないとわかる

晴れた日に抱つこ紐を捨つ麵カッター搾乳機鼻水吸引機捨つ

植込みの先へしばらく立ちどまり猫見るときは猫のやうなる

ちぎれさうに明るき春の歌書いてメンデルスゾーン卒中に死ぬ

ベビーカー押して入れれば葬場のとびらは思ふよりも大きい

にぎやかで良しと二歳も四歳もゆるされて走りだせば止まらず

なんて大きなザボンと思ふ こひびとの頭を抱いて眠りたるとき

四大文明いづれも河に生れしこと 冷水機のペダルをゆるく踏む

さかさまのビールケースに腰かけて都合のいいことだけを思つた

婚や子に埋もれるまへの草はらでどんな話をしてたんだつけ

後ろ手に髪をくくれり夜の更けを起きて詩を書くならず者にて